



## 市議2期を務め 司法書士の道へ

今年5月、太田市役所  
近くに合同司法書士リ  
ガル・パートナーを開設  
した。猛勉強の末、合格  
率2・8%という難関を  
突破し、2003年度に  
資格を取得。受験時代の  
苦労をともにした同期の

ターニングポイント

小和田大輔さん(30) Ⅱ  
高崎市Ⅱとともに構えた  
事務所だ。  
03年5月1日まで、桐  
生市議会議員を2期8年

務めた。「議会は言論の  
府。正論が通るはずだが、  
それ以外の理屈で動くこ  
とが多かった。自分が間  
違っているのだろうか

た。」  
もともと「法律家にな  
りたい」との思いが強  
かった。「学生時代弁護  
士になりたくて勉強した

も満たないが、「1分の  
1」の仕事で、人に感謝  
されることも多いこの仕  
事に大きな充実感を持っ  
ている。「司法書士は、一  
度ほかの仕事を経験して  
から、資格を取得する人  
が多い。いわば人生の巻  
き返しを図っている。そ  
ういう人たちとの交流  
も、いいものです」。

# 1分の1に充実感

飯島英規さん(44)

と、ものすごくフラスト  
レーションがたまり、ス  
トレスも感じた」。定数  
26のうちの一人にしかす  
ぎないと悩み、「1分の  
1」でできる仕事へと思  
いが強くなった。

そんな折、03年4月か  
ら司法書士という国家資  
格に「民事裁判代理権(簡  
易裁判所)、法律相談権  
が付与されることや、多  
重債務の処理ができるこ  
とを知り、これだと思っ  
た。」

資格を得てから1年に  
合格後、同期とともに  
受けた合同研修で講師が  
言った言葉が耳に残る。  
「あすの法律家の一翼を  
担いうる筋金入りの司法  
書士たらん」。少しでもそ  
れに近いように「努  
力、努力」。また、司法書  
士の役割を、多くの人に  
知ってもらうための活動  
も思い描き、行動に移そ  
うと考えている。  
(桐生市川内町二丁目)